



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1813号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 矢野 敏夫 幹事 西本 和夫



広重版画より 三島 朝霧

第1875回例会

2011.2.24雨

司 会

佐々木雅浩君

ロータリーソング

「それでこそロータリー」
指揮 石井良衛君

会長挨拶

会長 矢野敏夫君

皆様こんにちは。最近になってようやく暖かい日もあるようになり、寒さも峠を越した感がありますが、杉花粉はこれからがたくさん舞うようになります。特に今年は飛び散る花粉の量が、夏の猛暑の影響を受けて例年の倍以上ということなので、花粉症の方はくれぐれも体調管理には気をつけてください。

昨年から今年は、世界中で異常気象が見られ、一昨日(22日)も、ニュージーランドでマグニチュード6.3の地震があり、多数の日本人が行方不明になっているなど自然災害も多く発生して、何か変だな、という不安を感じます。地球温暖化もそうですが、人類が地球をいじめてきたことのしっぺ返しかもしれませんし、地球全体が自己防衛をしようとしている結果なのかもしれません。

我々の地球は誕生してから約46億年になります。そして地球の総面積は、海が約71%、陸地は約29%と3分の1以下に過ぎません。この陸地に約70億人と推定される人間が、様々な営みをしています。現在の地球は海に覆われ自然も豊かですが、今後数十億年の間には巨大隕石の衝突や火山活動、気候変動などによって、あの恐竜が絶滅したときのように大量絶滅が起きる可能性も高いといわれています。だから本当は内乱や、戦争をしたり、いがみ合ったりしている場合ではないと思いますが、現実には目先の利益や感情が世界を支配しています。主張した

り競争することは大事ですし、様々な開拓や開発も発展のためには必要なことです。また、人類が不完全な生き物である以上、色々な摩擦は今後もなくならないと思います。ただせめて一瞬一瞬にその場その場で、私たちは地球によって生かされているという、地球に対するおそれやいたわりを一人ひとりが持って地球人として行動すれば、地球もまた私たちに少しは優しさを見せてくれるのではないのでしょうか。そういう人類の質的進化を望みたいです。

2月の例会は今日が最後ですが、3月になるとベッツ(会長エレクト研修セミナー)があり、4月には地区協議会が開かれていよいよ次年度への本格的な準備が始まります。米山会長エレクト、森崎次期幹事は徐々に忙しくなると思いますので、早め早めに必要な準備事項を消化していくようお願いします。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	21/42	50.00%	33/42	78.57%
今回	38/49	77.55%	会員総数	52名

欠席者 遠藤(武)君、遠藤(正)君、野口君、橋本君、原君、前田君、室伏君、矢岸君、柳田君、米山君、渡辺君

幹事報告

幹事 西本和夫君

①3月の夜間例会は交換中学生壮行会です。

2010~2011年度
国際ロータリー会長
レイ・クリンギンスミス

地域を育み、大陸をつなぐ



スマイルボックス

- ◆小野君、久しぶりに出席させていただきました。まだ悪性リンパ腫の治療中ですが、今日は調子が良いので出席しました。月一回二日にわたる点滴治療を受けていますが、あと数回(数ヶ月)はかかる予定です。
- ◆森崎君、2月20日、伊豆マラソンを走ってきました。天候晴れ、気温11度、湿度47%。たくさんの人と走り、たくさんの人が沿道で応援する中を走るのは楽しいものです。3km大学生・一般の部76名エントリー中17位でした。応援して頂いた皆様、いっしょに走った諏訪部照久さん、ありがとうございました。
- ◆野田君、2月24日、25日、東京大田区でのビジネスフェアに新製品の三軸測定器を展示します。どういう反応があるのか楽しみです。三軸測定器とは三次元測定器の簡略化した廉価版の測定具です。
- ◆伊丹君、3月27日(日)当社新社屋落成40周年記念にご案内したところ、多勢の方が出席していただき本当に有難う御座います。当日の天気が少し心配ですけどあまり悪い事していないので晴天だと思ってます。入口の桜が満開で皆様をお迎えする事と思ってます。

卓 話

事業承継について

諏訪部照久君

今年一月から代表取締役社長に就任して20期目の年となります。39才、若すぎる二代目社長と言われ、今、気づいてみればもうすぐ還暦になります。思い起こせば先代の社長は、30才企業死亡説を口にしつつ、創業35周年記念式の翌年に61才の若さで他界しました。その後の承継は、突然の他界ゆえに長期間となり、大変苦労しました。よって、三代目の承継を早めに行うつもりで、いつしか勉強や研究が承継の仕事になっていました。

ところが年初に買った本には「創業者は承継よりも仕事に夢中で手遅れになることがある。二代目は、就任した時点で承継の計画をたてるべきだ。」とあり、さっそく30期を迎える迄の事業承継完了計画を立てる事にしました。しかし初代の早世後の三代目承継は、仮想継承者になるので、経営の承継(経営理念・経営ノウハウ・会社資産)と事業資産の承継(株式・事業用資産)は準備のみになります。そこで肝心の継承者例ですが、非

上場企業の大多数は社長の親族、特に子供へと承継しています。それは、経営の承継だけなら生え抜きの優秀な社員を起用する選択肢もありますが、資産もとなると身売りの交渉になり難題が山積する為、必然的な選択となります。特に自社株の移転は、事業承継そのものと言っても過言ではないでしょう。話は変わり同業者の場合ですが、二・三代目が継ぐよりメーカーへの身売りが多くなっています。理由としては、親子で共に苦労したくない、失敗したことを考えると身売りの方が良い、と思うようです。又、社長をメーカーから派遣させる事業主もありますが、最終的には買収されています。これらの場合、残された社員は大組織のルールについて行けず、退社を余儀なくされ、元事業主は恨みのかう事になります。何れにしろ最終的には経営者の判断となりますが、やはり親族への承継がベターで、苦労は当然のごとく覚悟しなければなりません。さて話を元に戻しますが、自社株の移転は大きく分けて売買・贈与・相続の方法があります。しかし、評価の高過ぎる株が多く大金が必要になる為、どれも工夫をしないと大変です。又、株主の構成も重要で、分散すると争いの火種となる可能性があります。更に、社内持株会の発足や自社株を会社が買い取り移転株数を減らす方法もありますが、規則や管理が杜撰になると取り返しがつかなくなります。しかし、以上の事を再考しますと、非上場企業の承継は、株に始まり株で終わる様で合点がゆきません。税制に……? 要するに、本来ならば顧客・仕入れ先・銀行・等に対し発展性のある承継であるべきだと思いますが、如何でしょうか。

よって、今年から事業承継についての計画を具体化し、準備をします。事業形態・株主構成・利益創出構造・資産負債内容・人的資産・銀行取引状況などの確認は、10年以内に事業継承者と充分行い、社業を通して地域社会に貢献できるよう、承継していきます。

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー表彰



小野金彌君

(週報担当：田熊幸代)